

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスあつた（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が子どもたちの姿を集団で捉え合い、子どもの発達を促すあそびに取り組んだり、それぞれのお子さんの姿に合わせた関わりを大切にしている	専門的な知識や支援の充実をはかるために、法人全体で計画的に職員研修に取り組んでいる。	PTやSTなどの専門的な訓練は事業所内で出来ないため、中央療育センターや地域の事業所と連携を図りながら、必要に応じて利用できるサービスへとつないでいく。
2	乳幼児期から、学齢期まで利用できるサービスがあるため、子どもの姿を継続的に捉え、つながりのある支援を提供することができる。	保護者の方が、少し先の生活の見通しが持てるように、先輩お母さんとの交流の場を設けたり、学習会を設定したりしている。	基幹相談支援センターと連携を図り、学校を卒業した後の生活の事や、福祉制度の学習をする機会を設ける。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・建物の老朽化（隙間風、建物が暗い、雨天時の対応）	・行政の立て替え計画がまだ数年先のため、大型修繕が不可能なため。	・部屋や扉のリフォームなど出来る範囲で修繕を進め、安全に生活できるようにしていく。 ・必要な場合には、危険箇所も含め、早急に修繕などをしていく。 ・大規模修繕に関しては、名古屋市とともに検討していく。
2	・定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているが、紙媒体が多い。	・紙媒体での周知の方が全保護者に周知できたことが分かりやすく、メール・SNS等では保護者が連絡事項などを確認できているか把握しづらい部分があるため。 ・他のセンターでコドモンなどのアプリを試験的に導入している園もあるが、ICT化にも賛否があるので使用してみているため。	・保護者のみなさんの意見を聞きながら、どのような媒体が良いか研究、検討をしていく。
3	・地域の保育園等との交流が少ない。	・コロナ禍を経て、他の園との交流の機会がなくなってしまったため。 ・利用児の姿に合わせて交流の方法や内容、実施を検討しているため。	・利用児童の姿や発達の様子などを丁寧に捉えながら、交流保育の必要性を検討していく。また交流の方法や内容などもどうあれば良いか検討していく。